

非凡なる凡人将軍 下村 定

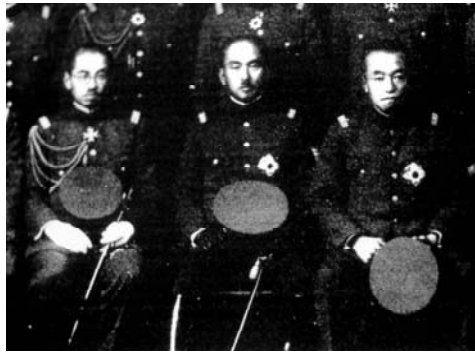
最後の陸軍大臣の葛藤

篠原昌人著 四六判ソフトカバー232頁 本体 2,000円 ISBN978-4-8295-0766-7

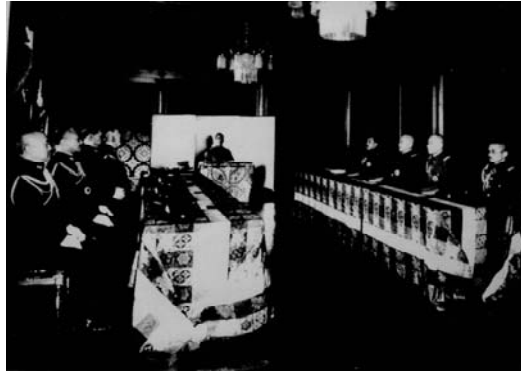


“帝国陸軍の骨を拾った”最後の陸相下村定さだむの初めての評伝

陸大首席卒業、長期の欧州駐在の後、エリート軍人の階段を駆け上がった下村は、地味な存在だったため、これまで取り上げられる機会が少なかった。しかし、「陸軍解体」の責任者という大仕事をやり遂げた人物である。昭和20年の第89帝国議会で、当局者でありながら陸軍の政治干渉を糾弾し“火元は陸軍”とその責任を認めて国民に謝罪した。陸大卒業から陸軍解体、巣鴨拘置所収監、そして交通事故死するまでの半生を描く。



東久邇宮、朝香宮と



大本営の会議

篠原 昌人
(しのはらまさと)

1954年栃木県生。1976年学習院大学法学部卒業。㈱フジテレビジョン入社、報道局、コンプライアンス部長を経て、㈱ディノス・セシールへ。2016年退職。現在は、和州遠山流盆石師範代。主要著書『知謀の人田村怡与造』（光人社）『陸軍戦略の先駆者小川又次』（芙蓉書房出版）『戦前政治家の暴走』（芙蓉書房出版）

序章 ある交通事故

第一章 陸軍大学校卒業講演

首席の講演「マルヌ河の会戦」

第二章 民本主義の渦のなかで

大正陸軍の始まり／戦乱後のフランス駐在武官に／軍隊とデモクラシー／参謀本部作戦課に配属／ジュネーブ軍縮会議代表团の一員に

第三章 暴支膺懲の嵐のなかで

第一次上海事変／参謀本部第四部長に／上海海軍特別陸戦隊の十日間／参謀本部第一部長に／南京政府の背後にいたドイツ軍事顧問団／上海戦線「二〇三高地」攻略戦／決行・杭州湾上陸／蘇州—嘉興ライン（制令線）が追撃の限界点に／制令線の撤廃／第七

十五回帝国議会での斎藤隆夫の演説

第四章 大陸の風の中で

病魔とのもう一つの戦い／第十三軍司令官として戦場へ／下村暗殺未遂事件

第五章 軍解体の宿命のなかで

北京で迎えた終戦／東久邇宮内閣の陸軍大臣に就任／八月二五日の勅諭と陸海軍消滅への道のり／急ピッチで進んだ「前例無き復員」／湯恩伯将軍の温情／どさくさまぎれの軍需品不正処分問題／戦争責任裁判法に下村は反対／陸軍最後の日までの残された時間／陸軍の政治干渉を糾弾した第八十九回帝国議会での下村演説／帝国陸軍最後の二日間

終章 巣鴨拘置所の一年

7月下旬 新刊搬入予定です

配本部数申込締切は 7月3日（水）です

FAX 03-3813-4615

芙蓉書房出版

〒113-0033
東京都文京区本郷3-3-13
http://www.fuyoshobo.co.jp
TEL. 03-3813-4466
FAX. 03-3813-4615

発行 芙蓉書房出版	注文数	注文者
非凡なる凡人将軍 下村定		
7月新刊 本体 2,000円	部	